

令和7年度 第1回神戸市総合基本計画審議会 議事要旨

開催日時：2025年5月8日（木曜）15時～17時

開催場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

出席者：

氏名	所属および肩書
石川 路子	甲南大学 経済学部 教授
伊藤 絵実里	株式会社くさかんむり（元 神戸地域おこし隊）
稻垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
岩田 かなみ	株式会社W SoWelu コミュニティマネージャー
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員（ヨーポレートアフエーズ統括部長）
佳山 奈央	La vie est belle 株式会社 代表（サードプレイスPORTOを運営）
河南 忠和	神戸市会議員（自由民主党）
客野 尚志	関西学院大学 総合政策学部 教授
國弘 正治	西日本旅客鉄道株式会社 理事（近畿統括本部兵庫支社長）
小林 鮎美	連合神戸地域協議会 副議長
佐合 純	iC 株式会社 代表取締役
品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
高瀬 勝也	神戸市会議員（公明党）
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部長
ながさわ 淳一	神戸市会議員（日本維新の会）
服部 孝司	公益財団法人神戸市民文化振興財団 理事長
飛田 敦子	認定NPO法人コミュニティサボートセンター神戸 事務局長
藤岡 義己	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事 (株式会社 イーエヌ ランニング 代表取締役)
森本 真	神戸市会議員（日本共産党 団長）
よこはた 和幸	神戸市会議員（こうべ未来 団長）
和田 真理子	兵庫県立大学 国際商経学部 准教授

欠席者：

浦島 理恵	インスタグラマー
小野セレスタ摩耶	同志社大学 社会学部 准教授
山下 裕子	全国まちなか広場研究会 ひとネットワーククリエイター／広場ニスト

（敬称略、五十音順）

1. 開会 司会 企画調整局 山本副局長

- ・資料説明、確認

2. 西尾局長挨拶

- ・ご多忙の中、本日ご参集賜ったこと、また平素より神戸市政に対してご支援、ご協力賜っていることを重ねてお礼申し上げる。
- ・昨年度は基本構想の検討策定にあたり、審議会において丁寧な審議を積み重ねていただいた。また、アンケートやワークショップ、市立小中学生などから意見をいただき、神戸に関わりのある多くの方々の意見や思いが詰まった基本構想を策定いただいた。この件についても改めて感謝申し上げる。
- ・この基本構想を踏まえ、本日は基本計画を審議いただきたい。基本計画は、基本構想の実現に向け、10年後の神戸の進むべき姿や方向性を定める重要な計画となっている。幅広い市民の方々の意見を聴取しながら策定したいと考えているので、委員各位にお力添えをいただきたい。

3. 議事（1）令和6年度の取り組みについて

<事務局>

- ・資料2に基づき説明。

<会長>

- ・自由にご発言いただきたい。

<委員>

- ・14ページの「小・中・高・大学生との意見交換」について、私が学生だった頃は、市について考える機会を与えてもらえなかった。小さいお子さんのタイミングで勉強できるというのは良い取り組みだと感じている。

<会長>

- ・多くの大学で、神戸や兵庫について学ぶ授業が開講している。学生の約半数は卒業後神戸を去るので、いかに将来戻ってきていただくかという点が重要である。

<委員>

- ・イベントを行った際、参加者にWEBアンケートをお願いすることも多いが、集める上で工夫されたことはあるか。

<事務局>

- ・まず、広報を多く行っている。また、各区役所で高齢者のスマホ講座を開催する際、操作練習の一環でアンケートをご紹介し回答を頂くなど、幅広い年齢層からご意見をいただけたと思っている。

<会長>

- ・ネットモニターの方には直接頼まれたりしたか。

<事務局>

- ・ネットモニターにも回答をお願いした。

<会長>

- ・令和6年度は多くの方から意見を聞いて順調に進んだということで、次の議題に移りたい。

4. 議事（2）令和7年度の進め方等について

<事務局>

- ・資料3に基づき説明。

<会長>

- ・基本構想を受けて、基本計画を作る。内容の議論の前に、その進め方について集中的に議論をしたい。その後、この叩き台の概要について丁寧に説明いただきましたので、特に重要な部分として基本姿勢や方向性、10年後の都市像の表現等についてお気づきの点があればご意見を頂戴したい。

<委員>

- ・進め方は賛成である。大学の非常勤講師をしているが、他の大学の先生から、「うちの大学にもぜひワークショップに来てほしい」と言われたので、開催する方向で市役所と調整している。また、大学生が卒業後神戸から出てしまうことについて問題意識を持っており、ワークショップを通じて学生が神戸のことを知り、自分達が神戸をつくっていくという機運を醸成したいというお話をいただいた。市役所には負担をかけるが、他の大学をはじめ、様々な場所でワークショップや機運の醸成、この計画を作るというところに参画していただきたく、引き続きよろしくお願ひしたい。
- ・去年の基本構想もそうだが、丁寧に進めておられる。今年度の計画も賛成という立場で申し上げたい。神戸にいる人にとどまらず、例えば東京や大阪に住む神戸生まれ神戸育ちの人にアンケートやワークショップを行ってはどうか。また違ったいろんな話が出てくるのではないか。

<事務局>

- ・神戸を外から見た視点は非常に重要と思っている。その点工夫させていただきたい。

<会長>

- ・アプローチに関して、想定はあるか。

<事務局>

- ・若年層には、神戸を転出された方向けへのアンケートも行っている。ワークショップでもそういったことは考えていきたい。

<会長>

- ・市外に出て行かれた方をどう捉えるか、ご意見いただければ、よろしくお願ひしたい。

<委員>

- ・首都圏に出て行かれた方を中心としたコミュニティは、社内でも企画を進めているので、コミュニティの部分でぜひ使わせていただけたらと思う。
- ・ワークショップは賛成。普段、起業支援などをしていても、学生は社会に出ていないため解像度が低く、社会のことを知るきっかけがないと感じる。様々な分野で活動している委員の皆様のコミュニティ同士がワークショップをコラボレーションするはどうか。例えば大学の学生と農村部の方、企業の経営者や若手社員、新規事業に関わる方々が一緒に神戸の未来のビジョンを考えるワークショップを行うことは、お互いのことを知ったり、サービスづくりや教育、社会貢献という面でも意味があると思う。

<会長>

- ・ワークショップは、多くの皆さんがすでに協力の意思を示していると聞いているが、それで收まらず、フュージョンしてやった方が良いというお話かと思う。事務局が大変になるとは思うが、ぜひよろしくお願ひしたい。

<事務局>

- ・いただいたご意見は非常に重要なと思う。取りまとめたものを共有しつつ、コラボレーション企画についても皆さんと考えていきたいと思う。ぜひご協力よろしくお願ひしたい。

<会長>

- ・ワークショップの性質やスケジュール案、どこでどういう意見を聞けばいいというアイデアなどのご意見をいただきたい。

<委員>

- ・神戸から出て行った人や帰ってきていない人からの意見が大事だと思う。私は市外の高校出身だが、同級生に東京に住んで働いて子育てしている人が多くいる。でも、子育てにお金がかかるし家賃も高いということで、兵庫県に帰ってきたいと思っている人も結構いるが、東京に比べて魅力的と感じる仕事がないため戻ってきていないようだ。本当に戻ってきてもらうという意味では、その辺りのリアルな意見をもう少し聞ける方法があったらと思う。大学の卒業生向けの同窓会経由でアンケートをとるといいのではないか。

<会長>

- ・通り一遍のアンケートより、もう少し踏み込んだインタビューに近い感じでお話が聞ければ一番良いと思う。ただ、同窓会に関しても工夫の余地はあるかと思う。

<委員>

- ・ 神戸市に伺いたい。多くの方のご意見をいただき、基本構想も素晴らしいものになった。ここからの基本計画にも非常に重要なことだと思うが、特定の年代やグループの意見が漏れていると感じることはあるか。

<事務局>

- ・ 年齢層ごとに分類しており、アンケートは全世代に聞けていると考えている。フォーラムも、幅広い年代層に向けて実施できると思う。講座は、学生やその上の方の世代を中心に行ながら、できる限り幅広い年齢層から意見集約したいと考えている。

<委員>

- ・ 学生は学校のアンケートなどで意見を収集できるし、高齢者は自治会の活動として、ワークショップで意見を出すことができる。問題は働いている現役の世代で一番お忙しい方。この人達はアンケートを返してもらっているのか。

<事務局>

- ・ アンケートはもちろん、フォーラムや一般公開向けのワークショップについても、働く世代の方に集まってもらえるように検討・企画して、幅広い世代をしっかりと捉えていきたい。

<委員>

- ・ 例えば企業さんに直接働きかけをして、神戸市の経済に貢献している年代の意見をできるだけ厚くお聞きできるよう、検討していただきたい。

<会長>

- ・ 声が届きにくく、聞きにくい人の意見をいかに集めるかということかと思う。働く人は、まさにその1つである。アンケートの回答率はそんなに高くはないので、働いていらっしゃる方の近くに行ってワークショップをするということが考えられると思う。こんな所でこんな形でワークショップをすればいろんな人の意見が聞けるというご提案やご意見はあるか。

<委員>

- ・ 3のところを見ると、みんな消費者みたいなイメージがある。物事をつくり出す企業側は大事で、神戸の産業をどうやって育成するかという視点は欠かせない。大企業や中小企業の経営者の意見、経営マインドを、この中に入れていいきたい。私が所属する会でも行おうとしているが、現在の審議会構成では、その層のウエイトが低いのではないかと思う。創り出す側の意見のウエイトをもう少し大きくすべき。

<会長>

- ・ その層の方にはどうしたら集まっていたらいいか。

<委員>

- ・神戸の企業の中から会を代表する理事や役職者を選定すれば、20社ぐらいは集められるが、私が所属する会だけの話になってしまう。審議委員になっていないが、神戸の経済を支えている層からの意見を吸い上げることも大事で、そこはひと工夫が要ると思っている。

<会長>

- ・審議会で全部を代表することは無理なので、いろんな団体にこまめに連絡をしていただくことかと思う。大企業にアプローチする方法についてはどうか。

<委員>

- ・弊社は神戸の関係人口でもあり、住んでいる人もいるので、社内で声掛けをしてみようと思っている。ただ、一般公募では社内の参加は難しいかもしれない。コラボイベントで日程を決めて、他の団体の方にもお声掛けすると交流の場にもなると思う。また、商工会議所の企業同士で広報勉強会をすることが多く、中小大問わず、神戸に根ざした企業同士の横のつながりを活用した勉強会も考えられる。勉強会のテーマには「神戸市」を設定できるかもしれない。
- ・神戸に住んでいる・神戸で働いている人対象のワークショップであればできそう。アンケートについても、やり方考えたらできると思う。神戸で働いている人達を対象にしたアンケートは、協力いただける企業はあるのではないか。我々もぜひ協力したい。

<会長>

- ・企業さん中心でお話を聞いたが、働く人ということで言えば労働組合、あるいは文化芸術でいうと趣味でつながるという提案もあるかと思うが、いかがか。銀行の立場からの意見も伺いたい。

<委員>

- ・ワークショップは良い取り組みなので、積極的にやらせてもらおうと思っている。特に良いと思う点は2つある。1つは、海外では自分の国や歴史を教えてくれるのに対し、日本人はあまり教えてくれない。神戸で働いている人にも同じことが起こっているのではないか。我々の銀行の中には中央と東と西と分けて部があるので、そこで意見を集めるとともに、逆に神戸のことを知る機会としてワークショップにうまく参画させていただけたらなと思う。もう1つは、銀行として大企業から零細企業まで幅広く取引があるので、日頃から得ている声を担当者がワークショップで積極的に発言し、神戸市にも聞いていただくことでプラスの貢献ができればと思う。

<委員>

- ・進め方の提案だが、神戸市と同じ課題、あるいは違った課題に取り組んでいたり乗り越えたりしている他の自治体のケースを知りたい。他都市の実例を参考にできれば、より視界が広がると思う。多くの気づかされる点があるので、井の中の蛙にならないように、外部の視点は必要だと思う。基本計画の中でもそういう視点が反映されると議論が広がるかもしれない。

<会長>

- ・ 基本構想のときは、他の市の同じようなものを集めて検討した。ワークショップにおいても、引き続き他市さんことをいろいろ学んだ方がいいというご発言だ。交通費の問題もあるかもしだれないが、良い提案だと思う。
- ・ これまで企業や生産者の話をしたが、それ以外に比較的弱い立場の人で、声が上げにくいという人も多くおられると思う。こういう人の意見を聞けばよいかなど、ご意見をお願いしたい。

<委員>

- ・ コミュニティスペースでカフェを運営しており、子育て世代のママ達が集まっている。また、「あすてっぷコワーキング」という女性の「はたらく」を支援するコワーキングスペースがあり、ライフスタイルに応じた働く場を提供しているので、様々な課題に今取り組んでいる子育て世代の方にアプローチできると思っている。また、水道筋商店街で活動しているため、小さな町の商店主さん達とワークショップを企画したり、地域の子ども達やオルタナティブスクールの子ども達とのコミュニケーションもできる。普段アンケートに答えない方々の意見を集めたい。

<会長>

- ・ 若い人はアンケートに答えてくれることが少ない。ぜひお願いしたい。

<委員>

- ・ 先ほど会長が、社会的に弱い立場の人々へどう声を広げていくかについて話されたが、それは私達N P Oも行っている分野だ。こうした方々の意見を聞く際に、「こういう方向性でこれをどう思うか」と聞くと、自分事として捉えにくいと思う。地域調査を行う場合、「こういうサービス・場があればいい」「困っていること」といった切り口で行っている。意見を吸い上げるには、漠然としたものよりも身近な問題から答えていただき、それを方向性に関連づける工夫があれば、より声が生かされると思う。

<会長>

- ・ それは次の話題であるワークショップやアンケートで意見を聞く方法にもつながるが、その前に1つ質問がある。里山・農村に関わる人の意見をどのように収集するべきかお聞きしたい。

<委員>

- ・ 北区では、里づくり協議会や民生委員、自治会単位の多くの団体があり、特に高齢者が多い。山田や淡河、八多などの地域には若手の組織も存在し、月に一度定例会が開かれているので、意見を聞けるかもしれない。ただ、初めて基本計画を見た際、駅中心のまちづくりが重視される傾向があり、農村に関する内容が少ないことを残念に感じた。農村の住民は高齢なので情報収集が難しいこともあるが、地域のリーダーを中心とした農村の意見を取り入れていきたい。

<会長>

- ・ 地域がしっかりとしていれば、誰かと話すことができる。外国人についてどう思うか。

<委員>

- ・ 外国の方は、普段所属する学校やコミュニティが重要だと思う。自分達の言語でワークショップを開けば参加しやすいと思う。また、どこかに所属しないとなかなかワークショップに参加しづらいことはある。兵庫区では自連協や自治会、婦人会などが地域協働課と密接にやりとりしているので、各区役所の協力を得て小さなグループで話し合う機会があっても良いと思う。

<会長>

- ・ 多方面にネットワークが広がっていく気がする。今後もご提案をよろしくお願いしたい。
- ・ 次に基本計画について、昨年集めた市民の意見を基にした資料4の文書と、資料5の説明を行っていただいた。資料5の基本姿勢と方向性、10年後の都市像についての2点についてご意見をいただきたい。とりわけ方向性について、内容を示して賛否を問う方法や、趣旨だけ話して自由に答えてもらう方法がある。皆さんの率直な意見を集めるためにどうすればいいか、ご意見をいただければと思う。

<委員>

- ・ 市域全体の活性化については、市民が本当に望んでいるのか疑問に思う。例えば、都市部に建物が建てばいいということや、ウォーターフロントに噴水や橋を造ること、さらに、ポートタワーもきれいになったが、そこまでする必要があったのか。それよりも森林や里山など、神戸市のまち全体をどうつくっていくのかを考えるべきだと思う。今後、市民との協議において基本姿勢や方向性は重要なので、じっくり検討をお願いしたい。

<会長>

- ・ 提示する内容によって回答が影響されることがあるため、慎重に考える必要がある。しかし、全く自由な形で質問すると分かりにくいこともある。現状の神戸を評価している基本構想の3段落について、聞き方とか分け方についてご意見を伺いたい。

<委員>

- ・ スケジュールを見たとき、神戸市がワークショップ全部行うのは難しいと感じた。まずはワークショップのノウハウを共有するワークショップが必要だと思った。それぞれの団体やグループによって感じ方や見方が異なるので、それらを引き出すには共通言語が重要。私も自分の所属している団体で、このテーマのワークショップを行って、裾野を広げられたらと思う。

<会長>

- ・ 市役所でもオープンミーティングという、職員が自由に意見交換できる場があり、その際にファシリテート能力も身についていく。この試みをもっと広げれば、府内でもファシリテーターを養成できる。また、言語を理解して話せる人を育てるのも重要である。

<委員>

- ・パッケージの形で渡していただけたとやりやすいと思う。誰にどの粒度でどの言葉でどの温度感で伝えるかでもかなり変わるので、神戸市が「これだけは絶対伝えてほしい」「こういうアウトプットイメージが欲しい」という内容をまとめていただければ、各団体がベストな方法で対応できると思う。そして、最終的に各団体の意見を集約した締めのワークショップを開催することにより、多様な意見を反映した議論ができると思う。そのために、パッケージを使って各層の方に情報を配布する方法も1つのアイデアではないか。

<会長>

- ・大変だと思うが、すごく面白いのでぜひ取り組んでいただきたい。

<委員>

- ・市役所によってたたき台が作成されているが、これはワークショップで提示される予定か。

<事務局>

- ・この資料をそのまま使用するのではなく、まずはこれまでのまちの歴史や今後予定されている内容に関して、適切な形で提示し説明させていただき、その後、この方向性について、例えば1つの案を提示して「どう思われますか」といったご意見を伺うこともあると考えている。

<委員>

- ・私は、産業がしっかりとしていないと人は集まらないと考えている。やりたい仕事と神戸でできることをマッチさせることを、この10年間でやらなくてはいけない。その中で、方向性②の「三宮などの都心の中心部では居住機能を一定抑制しながら」という部分に疑問を感じる。これは今神戸市がやっている施策なので、この文言を削除した方がいい。そして、神戸は魅力的なビジネス環境を提供することにより、神戸のこれから経済・産業を引っ張ってくれる人を引き寄せる都市をつくっていくのだという、はっきりとした方向性を書いてほしい。
- ・目標値は「2025年以降の人口の社会動態プラスの維持」とある。維持ではなく増加を目指す方が良い。職が魅力的な神戸であるからこそ人が集まってくるまちになるんだということを強調すべき。就職とか生活の利便性を高めて、前向きな方向性を示してほしい。

<会長>

- ・KG Iの設定方法や指標の適切性について、市民の皆さんのお見を伺いたい。また、方向性をどう整理して提示するかも重要。産業のことや市民の望んでいることを尋ねることもできる。

<委員>

- ・ゴールデンウイーク中に名古屋から来た娘の友達を神戸に案内したが、その友達は「神戸に仕事をあつたら住んでみたい」と言っていた。初めて神戸を訪れた人の意見を聞くと、神戸の魅力を再認識した。神戸の魅力を日本や世界に発信することが重要だと思う。社会動態プラスの維持は住んでもらうことが大事なので、仕事も含めて議論していただきたい。
- ・方向性②の話に関連するが、神戸市は都心と郊外の駅前再生に力を入れているが、「既成市街地」に関する記述がほとんどない。「下町」という言葉は基本構想にあるが、具体的な目指すま

ちの姿は示されていない。ワークショップなどで地域の方々の意見を伺う際、自分の住む地域について触れられていないと参加意欲が下がるのではないか。地域ごとにクローズアップする情報を変えるという方法はあるので、その点を充実させていただければと思う。

<会長>

- ・方向性を整理する際に、神戸市を構成する地域の特性に集中することができるかもしれない。その場合、産業の部分を方向性①に集約するか、あるいは方向性②の中で産業を重視する地域について強く触れるなど、いろいろな方法があり、書き分けが大事だと思う。

<委員>

- ・神戸は海と山が近く、美しいまち並みが広がる特徴がある。この都市型のまち並みは景観条例で守られてきた歴史があり、都市構造も坂のあるまちとして港町や山の景色を楽しめる。神戸には他のまちにはない魅力が多いので、市民が「神戸に住んで良かったな」と思える要素を盛り込んだ宝石箱のような基本計画になれば、ワークショップでも楽しく意見が出せると思う。

<会長>

- ・各団体でワークショップを行っていただくと、それぞれの立場から神戸の魅力について語るのを、それをうまく取り込んでまとめていくのが最善だと思う。

<委員>

- ・「地域経済循環率」は非常に重要な指標で、KG Iに掲げるべき大きな概念だと思う。神戸が外貨を稼ぎ、それを市内で分配することで豊かなまちになる。これは地域が地域の産業を育てようと思っているから。神戸も地域産業を育てる必要があると思う。地域経済循環率の表に、仙台、札幌、広島を加えて、独自文化を持つ都市と東京依存型の都市を比較し、傾向を見てほしい。神戸市民が自分達で神戸のまちづくりを行う意識づけをしていただきたい。
- ・基本構想の方向性③の取り組みを具体的に誰が担うのかという点が重要であり、それが明確になっていない。消費者側やサービス受け手側の意見は頻繁に出てくるが、「あなたも担う側なのだ」というメッセージを同時に伝える必要がある。この点については、実施計画のアクションプランで具体化されると思うが、少なくとも方向性にはその要素を含めるべき。

<会長>

- ・自治体の文章は全体のために書かれることが多く、市民の主体意識が欠けてしまいがちになるので、押しつけにならないよう注意しながら、市民が当事者意識を持つことの大切さを書くことが重要。また、市民がいつでも客観的に状況を把握できるようにすることもできる。

<委員>

- ・昨年度から基本構想について一緒に考えてきたが、「基本構想はあるけど読んだことがない」という声が多く聞かれた。やはり市民に広報して浸透させることが重要。基本計画も同様で、一

緒に策定することが大切。議論や意見交換を行いながら、それぞれが自分ごととして基本計画を捉えることが重要なのではないか。

- 多くの学生は神戸についてあまり知らないため、他の団体や企業と協力してワークショップを行うことが重要だと感じる。学生は柔軟で面白い発想を持っているが、様々な関係者と一緒にワークショップを実施することで、より有益な意見が得られる環境が整うのではないかと思う。
- ワークショップで専門家が専門分野について話すと、細かい点ばかり指摘してネガティブな方向に進んでしまうことがある。それよりも、別の分野を考えて視野を広げることも重要だと思う。市政について知っていただき、市の職員の熱意や考えを伝えることで、ワークショップをポジティブに進行できるようにしていただきたい。

<会長>

- 今日の最大の発見は、当事者意識を文書に盛り込み、実現に持っていくかということ。また、ポジティブワークショップの検討やコラボレーションの重要性も参考にしていただきたい。
- 進め方、スケジュールについては資料3に記載の基本的なやり方で行うことでご了解いただいた。これで終了とさせていただく。今日は本当に長時間感謝申し上げる。

5. 閉会

<西尾局長>

- 本日は大変白熱したご議論をしていただき感謝申し上げる。基本計画策定にあたり市民の意見を広く聴取しているが、全ての意見を網羅的に実施するには皆様のご協力が不可欠である。また、楽しみながら基本計画策定を進めたいので、今後ともご指導よろしくお願いしたい。